

会 議 録

1 会議名

令和3年度 第5回諏訪区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 報告事項

○ 「地域協議会に関する意識調査」結果を受けた取組について（公開）

(2) 協議事項

○ 地域活動支援事業の審査の振り返り（公開）

(3) 自主的審議事項

○ 二貫寺の森の活用について（公開）

1) 全体会議

2) グループ審議

3) 全体会議

3 開催日時

令和3年9月14日（火） 午後7時から午後8時55分まで

4 開催場所

諏訪地区公民館 集会室

5 傍聴人の数

2人

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

・ 委 員：川上 俊一、川上 奈津子、川上 久雄（会長）、川室 光昭、西嶋 明子、
服部幸雄、堀川 悦郎、山岸 愛、山岸 真也、山田 勝也、
山田 哲平（副会長） （欠席1人）

・ 事務局：中部まちづくりセンター 小林センター長、藤井係長、山崎主事

8 発言の内容（要旨）

【藤井係長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条1項の規定により、会長が議長を務めることを報告

【川上会長】

- ・会議録の確認：川上 奈津子委員に依頼

次第2議題「(1) 報告事項」の「『地域協議会に関する意識調査』結果を受けた取組について」に入る。事務局より説明を求める。

【藤井係長】

- ・資料1に基づき説明

【川上会長】

今ほどの説明について質疑を求める。今期に入ってから昨年1年間の活動を振り返って、感じたことでも構わない。

(発言なし)

資料1記載の回答の中には、委員の活動について「仕事や家庭等との両立が難しかった」「職場等に理解を求める工夫をした」とある。今期の協議会委員は各自、家庭や職場の理解を得て参加できているか。問題等はなかったか。なかなか認知されていないといったこともあったようであるが、特に問題はなかったか。

(発言なし)

それでは、以上で次第2議題「(1) 報告事項」の「『地域協議会に関する意識調査』結果を受けた取組について」を終了する。

次に次第2議題「(2) 協議事項」の「地域活動支援事業の審査の振り返り」に入る。事務局より説明を求める。

【藤井係長】

- ・資料2、3に基づき説明

【川上会長】

今ほどの説明について質疑を求める。

(発言なし)

まずは資料2の審査（採択）結果について、意見を求める。

（発言なし）

今年度は、当初募集で5件の事業提案があり採択されたが、配分残高が出たため追加募集を実施した。追加募集では2件の事業提案があり採択されたのだが、残念ながら65万9,000円の残額が生じてしまった。だが、さらなる追加募集は実施せず終了とした。

配分残高が出たことについては、例年と比べて提案件数が減っているということもあるように思う。幸い審査基準の評価結果の点数が割と高めであるため、活動に関する皆の期待度が高い事業が多いのだと思う。

何か意見等あるか。

（発言なし）

続いて、資料3に沿って意見を確認していく。

まず、資料表面には「採択方針」「補助率」「補助金の限度額」「募集期間」について記載されている。

本年度の審査をとおして、「疑問に感じたこと」「見直しが必要だと思った点」について意見を求める。

（発言なし）

資料3に記載のとおり、今年度の提案実績としては、「地域振興に関する事業」として「教育文化事業」が2件、「住民福祉向上やコミュニティ基盤強化に関する事業」が3件であった。

残念ながら「農業振興事業」「交通安全・防火防犯事業」「健康・福祉事業」については提案がなかった。こういった事業提案があればよかったといったことも含めて、意見を求める。

（発言なし）

次に「補助金の限度額」については、「上限：なし」「下限：5万円」であり、今年度の最高額は144万5,000円、最低額が7万1,000円であった。

また「募集期間」について、期間が短かった・長かったといった声等はなかったか。

（発言なし）

次に資料裏面である。

裏面には「追加募集」から「その他」まで8つの項目が記載されている。項目が多いため、いくつかに分けて確認していく。

まず、「追加募集」「ヒアリング」である。これらについて、「疑問に感じたこと」「見直しが必要だと思った点」について意見を求める。

(発言なし)

残念ながら、追加募集を実施したが配分残高が出てしまった。現在のコロナ禍の状況だと、なかなか事業が思うようにいかないところもあったかと思うため、仕方がない部分もあるかと思う。

次に、採点結果一覧作成のもととなる、「基本審査判定」「採択方針への適合判定」「共通審査基準の項目と配点」「順位付けの方法」の4項目について、「疑問に感じたこと」「見直しが必要だと思った点」について意見を求める。

(発言なし)

「基本審査判定」並びに「適合判定」ともに、不適合と判定した事業はなかった。また「共通審査基準の項目と配点」についても、「評価の低い事業」がなかった。

これらについて、何か意見等あるか。

(発言なし)

最後に「審査の自粛」「その他」についてである。「審査の自粛」として、地域協議会委員が提案団体の長を務めている場合は審査を行わないこととしていた。だが昨年までは、地域協議会委員の多くが「移住促進諏訪の会」のメンバーであったため、当該提案団体の役員についても当該団体からの提案事業の審査を自粛することとしていた。今年度より変更したのだが、特に問題等はなかったか。

(発言なし)

「その他」に記載の内容についても、特に問題等はないか。

(発言なし)

今年度は当初募集・追加募集ともに「ヒアリング」「審査」「採択すべき事業の決定」を同日に実施し、スムーズに審議を進めることができたと思っている。これについて、何か意見等あるか。

その他、今年度の募集・審査の全般を通じて、1人ずつ順に確認していく。

【川上 俊一委員】

今年度の審査を行った感想として、配分額が残ったことが残念だったと思っている。また、提案団体についても、昨年と比べて今年度は減っていると思った。

「防犯カメラを取り付けたい」との話を聞いたことがあったのだが、その後どうなったのかは分からなかった。

残額があったため、そういった事業に充ててもよかったように思っている。

【川上 奈津子委員】

「採択方針」記載の「提案実績」を見ると、毎年提案のあった「防火防犯事業」が今年度は提案がなかった。

また「健康・福祉事業」でいうと、「諏訪の里づくり活動事業」にも含まれていると思う。

いろいろな項目を網羅しているとは思っているのだが、自分も農業をしている身として「農業振興事業」に関しては、やはり提案がしにくいように思う。団体を作りようもない。例えば、生産組合等が提案をする以外ないように思う。そのため「農業振興事業」の提案は難しいかと思っている。

【川室委員】

配分残額がかなりあったことについては、コロナ禍の状況もあるため、やむを得ない点もあるかと思っている。今後、配分残高が減っていくようなかたちで提案がされていけばよいと思う。だが、このまま残額が出る状況が続くようではもったいないように思う。

【西嶋委員】

「教育文化事業」として、「すわっ子わくわく事業」と「未楽来すわ事業」が挙げられている。

今回の自主的審議のテーマは「二貫寺の森の活用」であるが、地域の自然に関する事業は提案がしにくいようにも思っている。だが、自然に関する提案や地域の自然を大事にするような提案があってもよいかと思っている。

【服部委員】

昨年度は、9事業の提案があり約370万円が採択された。今年度は当初募集で5事業、追加募集で2事業の提案があり、約414万円が採択された。

コロナ禍の影響も大きいとは思っているのだが、「諏訪の里づくり協議会」の補助希望額が大きいとは言っても、昨年から比べると約70万円落ち込んでいる。

個人的には募集期間も短いとも思っているのだが、各団体の活動予算は大体決まっていると思うため、各団体に早めに声掛けを行い、早めに計画を立ててほしいと思っている。

昨年提案のあった「諏訪区防災士会」から、今年度は提案がなかった。やはり声掛けをした中で、何かしらの活動をしてほしいと思っている。

【堀川委員】

年々、提案する事業団体が少なくなっていると思うため、やはり周知を徹底して、もう少し多くの団体より提案されるようにしたほうがよいかと思っている。

また「諏訪の里づくり協議会」が1番大きな団体なのだが、現在、諏訪区で行っている事業は当該団体がほとんどを行っているため、もう少し団体を細分化して、新たな団体というか、違った活動内容を考えていく必要もあるかと思っている。

【山岸 愛委員】

コロナ禍であるため仕方がない部分はあるかと思う。だが、昨年度は追加募集さえも諦めたことを思えば、今年は追加募集を実施し、「コロナ禍の中で何ができるのか」を考える団体がいてくれたことを思うと、来年は今よりも状況が改善していくことを願いたいと思う。もちろん地域活動支援事業があることが前提である。

どうしても去年と今年は、地域の子どもたち等、なかなか未来のための投資といったことが想像しにくいところもあり、使えていない気がする。そういった活動の提案がまた来るような時代を願うしかないということが、実情のように思う。

自分たちが何かというより、世の中がよい方向に行くことを願いつつ、こういった状況の中でも協議ができて事業ができることを、プラスに変えていけるとよいと思っている。

【山岸 真也委員】

配分額を約66万円残したといっても、コロナ禍の事業がやりにくい状況の中でこれだけできるということは、それだけ諏訪区に活力があるように感じる。

また、追加募集で2件の事業提案があり、約140万円が採択された。無駄のない結果になったと思っている。

【山田 勝也委員】

コロナ禍の状況の中で、これ程の予算を組み行動することは有意義ではないかと思う。

先ほど、「防火防犯事業」で防犯カメラを付けてはどうかといった意見も出たのだが、最初は予算がかからなかったとしても3年後より維持費がかかるため、その維持費はどうするのかということで揉めたため、一応、事業提案は見送ることとなった。皆が把握している情報であるか分からなかったため、自分より補足した。

【山田 哲平副会長】

自分も、コロナ禍の状況の中で、逆にこれだけの金額を地域住民や団体が活用して活動しているということに敬意を表する。コロナ禍でいろいろと制限がかかる中で、未来に向けて下地を作り、これを基に来年、再来年に何か事業が広げられることが1番よいのかと思っている。

【川上会長】

委員より1言ずつ意見をいただいた。

1年間、地域協議会委員を務めてみて、いろいろと分かったこともあると思う。総括としては、この大変なコロナ禍の中で、それぞれの団体が頑張っただけの事業提案をしてもらえたことが大変よかったとの意見が多かったように思う。

また地域協議会としても、早めに各種団体に声を掛け、事業提案をしてもらえるようにしたかったとの意見もあった。

山田 勝也委員の発言にもあったように、防犯については地域協議会の中で話が出て、町内会長協議会に提案したのだが、残念ながら維持費の問題から提案されなかった。今後、改めて考えて検討できればよいと思う。

農業振興については、農業が中心の諏訪区ではあるのだが、農業に関する団体がないとの問題もある。事業提案がないことは残念なのだが、工夫の仕方によっては提案することもできると思うため勉強していければと思う。

自然環境を生かした事業については、なかなかないということだが、現在、地域協議会で「二貫寺の森の活用」について協議しているため、今後、二貫寺の森を中心とした自然環境を生かした事業や団体ができればよいと思った。

今年度も各事業で不用額がないよう進んでいくことを願いたいと思う。

本日出た意見については、次の「地域活動支援事業の募集に向けた要項等」を定める際の議題とし、改めて決定することとなる。

以上で次第 2 議題「(2) 協議事項」の「地域活動支援事業の審査の振り返り」を終了する。

次に次第 2 議題「(3) 自主的審議事項」の「二貫寺の森の活用について」に入る。最初に「1) 全体会議」について、事務局より説明を求める。

【藤井係長】

- ・本日の進め方について説明

【川上会長】

9月11日に予定されていたウォーキングに参加して二貫寺の森を改めて見るとしていたのだが、残念ながら雨のため中止となってしまった。個人的に行った委員がいれば、感想などを発表願う。

【山田 哲平副会長】

自分は9月11日の日曜日に夫婦で二貫寺の森に行ってみた。子どもが小学校を卒業して以来、久々に行ってきた。

管理棟からツリーハウスに向かって歩いたのだが、雨の後ということもあり足元がかなりグチャグチャであったため履いて行った靴がだいぶ汚れた。そこを抜けてツリーハウスが見えてきた辺りで蚊がすごかったため、諦めて帰ってきた。やはり虫が多いというイメージがあった。

管理棟までは綺麗だったのだが、そこから一步踏み込むと何か少し違う雰囲気を感じた。そういったところがよくて行く人もいると思うのだが、自分は苦手であった。今後、また考えて行こうと思っている。

【堀川委員】

自分は9月8日に行ってきた。

第一印象として、イメージはよくないといわれていたのだが、自分はよいところだと思った。たまたまなのか、いつもなのかは分からないのだが、遊歩道は綺麗に草刈りもしてあり、人がすれ違うことできる程度の幅となっていた。だが、先ほど山田副会長の発言にもあったように、遊歩道の足元はぐちゃぐちゃであった。

今後、二貫寺の森をテーマとして話し合っていく中で、それほどあちこちと直さ

なくても、例えば、遊歩道の脇を少し綺麗にただけで、変わってくるように思った。

森から諏訪地区公民館のほうに出るところに橋があって、橋から上流を見ると、川の流れの中に段差がある場所があって、すごくよいと思った。飯田川が流れていてよいと思ったが、森の中から飯田川を見ることはできない。そのため、大変かと思うのだが、所々に飯田川を見ることができるようポイントを作ることができれば、皆が散策しやすくなると思った。

また、話は飛んでいるかもしれないのだが、森だけではなく周辺も整備できればよいと思っている。例えば、すぐ近くにグラウンドがあるのだが、思い切ってグラウンドに芝生を植えてサッカーの練習場のようにしてもよいと思う。

これも話が飛躍し過ぎているのだが、対岸の堤防がずっとアスファルト敷きになっており、どこまで整備されているのかと思って行ってみたところ、田村産業のところまでアスファルトになっていた。河川敷の管理の問題もあると思うのだが、許可が取れるのであれば、ちょっとしたジョギングコースにできればよいと思った。

また現在、堤防の両脇は近隣町内が草刈りをしているようなのだが、もう少し綺麗に周辺を整備することによって、二貫寺の森に来てもらいやすくなると思った。

先ほど山田副会長の発言にもあったように、蚊が多いため、この問題をまずは何とかしなければならぬと思った。実際に自分も蚊に刺され、「もう帰りたい」と少し思ったのだが、それでもウロウロしていたら、あっという間に1時間半ほど時間が経過していた。

個人的には、整備すればすごくよいところになるのではないかと期待している。

【川上会長】

自分は本日の会議の前に行ってきた。

40分ほど歩いてみたのだが、しっかりと草刈りがされており、歩ける距離が結構長くあった。行き止まりの道もあったのだが、ほぼ回遊できるような感じであり、2キロから3キロほどは歩いたかと思う。綺麗に草刈りがされていたため、歩くことには問題はなかった。管理棟前とツリーハウスの前が広々と草刈りがされていたため、何かしらイベントができそうな感じであり、もったいないと思った。

ただ山田副会長や堀川委員の発言にもあったように、本当に蚊が多いため、完全

防備で行ったのだが、それでも刺されてしまった。その辺が少し課題かと思うのだが、それを克服できればよいと思った。

余談なのだが、二貫寺の森には、過去に農業高校の農場や畑があり、その後、市で野球場を作る計画もあったのだが中止となってしまう、荒れていた。平成10年頃、自分の子どもが小学生の時、5年生や6年生の児童が中心となって森に入って探検をしたようである。今のように道があるわけでもなく、もちろんツリーハウスや管理棟など何もなかった。森の中に入って、アケビを取る、橋から裏の保倉の方向に抜ける等、探検をしたようである。そういったことを2年ほど行ったのだが、その後は学校でそういったことに詳しい先生に当たらなかったこともあって、あまり足が進まかったようである。

その後、10年ほど経ってから自然環境保全地域に指定された。

実際に二貫寺の森に行った委員の感想も参考にして、この後のグループ審議を進めてほしいと思う。

次に「2) グループ審議」に入る。事務局より説明を求める。

【藤井係長】

・資料4、参考資料1・2、チラシに基づき説明

【川上会長】

今ほどの説明について質疑を求める。

(発言なし)

参考資料2に記載されているような数字は、これまではなかなか出ていなかった。

日曜日で管理人がいる時の利用人数だけであり、それ以外の人数は含まれていない。それでもこれだけの人数が利用しているということは、それ以外の日も利用している人は相当いると考えられる。これを少しでも大きくできればよいと思う。

－ グループ審議（約40分間） －

【川上会長】

会議を再開する。

「3) 全体会議」に入る。

最初に「活用方法検討グループ」より、本日の審議結果について報告願う。

【山田 哲平副会長】

今回も欠席の委員がいたため、リーダーと副リーダーの決定は持ち越しとした。代理で自分が取りまとめをしたため報告する。

いろいろと話をしたのだが、結果的には二貫寺の森を管理している研究会の人たちとの話し合いが場を設けられるとよいと思った。その話し合いの中で、イベントを含めて、できる・できないということを、再度確認ができればよいと思っている。

会場に来てもらうことが本当は1番よいのだが、コロナ禍であるため、難しいようであればリモートや質問状のかたちで、こちらから聞く方法も取れるかと思っている。

次に、やはり現場へもう一度、蚊が落ち着いたら頃に行きたいとの話が出ていた。おそらく10月後半の大豆の刈り取りが終わった頃であれば落ち着くのではないかと話が出ていたため、天気の良い日を見て、行ければよいとの話でまとまった。

【川上会長】

次に「イベント開催検討グループ」より本日の審議結果について報告願う。

【山田 勝也委員】

- 1 点目。二貫寺の森を中心として、マラソン大会や市民ぐるみのウォーキング、トレッキング等を行ってはどうか。
- 2 点目。ドッグラン等、動物を主体としたイベントをするとよいのではないか。
- 3 点目。コースガイド。例えば、航空写真や地図等を管理棟に付ける等、コースが分かるようにしたほうがよいのではないか。
- 4 点目。遊歩道の整備。例えば、砂利やチップをひく等。また、遊歩道と際の境をきちんとしたほうがよいのではないか。
- 5 点目。保全会、研究会の人たちと話し合いの場を設けて話し合いをしてみることもよいのではないかと意見があった。

【川上会長】

両グループの報告について、質疑を求める。

(発言なし)

保存会、研究会との話し合いの機会や交流を持ちたいということが共通した話題となった。他に出た意見として、蚊が1番の問題のような気がした。

他の似たような施設を見学し、どのように対策をしているかを確認してはどうか

との話もあった。事務局より何か補足等あるか。

【藤井係長】

最初の説明の中で、市に「こういったことを行いたい」との話を持っていくようなかたたちに、いずれはしていきたいとの話をした。

そのためには地域協議会だけではなく、実際に二貫寺の森に関わっている人たちや地域住民との意思疎通や合意形成が必要だと思っている。

そういった意味で、本日のグループ審議の中でも話のあった、二貫寺の森保全会や研究会と、地域協議会委員が直接話をする機会を作ることができればよいと思った。

ただ、会議の場というよりも、もう少しざっくばらんな話のほうがよいかとも考えるところである。違う日時で、例えば、メンバーを絞る等したほうがよいかとも思っている。

もし、会議の開催や意思疎通の方法について、考えがあれば聞きたいと思う。またそれについて、正副会長と相談したいと思っている。

【川上会長】

自分たちとしても、この研究会や保全会の実態がまだ分かっていない。そのため、どのようになっているのか、もし事務局で調べられるようであれば、メンバーやどこに本部があるのか、NPOも含めて教えてほしい。

現時点では漠然としたことしか分からない。実際、どこに事務局があり、誰が中心となってどういったことをしているのか、よく分からない。その辺を調べてほしい。もしも、委員の中でもそういった情報があれば、教えてほしい。

この件については、改めて正副会長と事務局で検討したいと思う。保全会や研究会の事情もあると思うため、どのようなかたちで進めるかも含めて、検討したいと思うがよいか。

(よしの声)

では、そのようなかたちで進めることとする。

以上で次第2議題「(3) 自主的審議事項」の「二貫寺の森の活用について」を終了する。

次に次第2議題「(4) その他」に入る。本日の議題に関して何かあるか。

(発言なし)

最後に次第3「その他」の「(1) 次回開催日の確認」に入る。事務局より説明を求める。

【藤井係長】

- ・ 次回の協議会について、二貫寺の森保全会や研究会との意見交換につながるよう調整したうえで開催する旨を説明

【川上会長】

- ・ 次回の協議会：10月中旬以降で改めて調整
- ・ 会場：諏訪地区公民館 集会室
- ・ 内容：(仮)自主的審議
- ・ 会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 中部まちづくりセンター

TEL：025-526-1690

E-mailchubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。